

ケアプラン作成の思考過程

福祉 社会福祉演習 健康福祉科・第3学年
石川県立田鶴浜高等学校

1 事例の概要

本校健康福祉科は、3年間で介護福祉士の養成を目指す学科である。入学生徒は全員、介護福祉士の国家資格取得を目指している。就職希望者の大半が地域の社会福祉施設への就職を希望している。そのため、介護福祉士に必要な専門知識・技術の習得に努め、将来必要とされる知識の活用力と問題解決能力を養う必要がある。

そこで、在宅における事例や現場実習で得られた事例を取り上げ、サービス利用者の将来の自立に向けた生活課題の解決及び目標設定のあり方、サービス利用者のよりよい人生のあり方についてグループで話し合い、その内容を全体に発表する場面を設けた。この活動により、他の科目で得られた知識や技術を統合し、生徒が思考を深め、自らの力で適切な援助方法の判断ができる能力の育成に繋がると考え実践した。

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ① サービス利用者の自立生活支援について関心をもち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組む態度を身に付ける。
- ② サービス利用者の生活課題の解決及び目標設定のあり方について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付ける。
- ③ サービス利用者の理解を図りながら、必要な情報収集を行い、その情報の分析・解釈した結果から、ケアプランを作成することができる。
- ④ ケアプランに関する基礎的・基本的知識を身に付け、サービス利用者の自立生活支援の意義や役割を理解する。

(2) 指導上の工夫点（視点）

- ① 事例を活用し、サービス利用者のよりよい人生のあり方について考察できる工夫
 - ・在宅におけるモデルケースや、現場実習で得られた事例を活用することで、生徒が興味・関心を持ち、思考を深め、適切な援助方法の判断ができるようにする。 【学ぶ意欲】
 - ・モデルケースの事例では、情報の分析・解釈の容易なものを提示し、既習事項の知識の活用を促す。 【知識・技能】
- ② 思考過程が分かるワークシートの工夫
 - ・身体機能状況、精神・心理状況、社会環境状況の3点から現状把握をし、生活課題の発見がしやすいようにする。 【課題発見能力】
 - ・主目標から、その実現に必要な支援目標が設定されることを説明する。思考過程を図示し、生活課題を解決するための根拠ある支援目標が設定できるよう促す。 【問題解決能力】
- ③ グループワークと全体発表の活用
 - ・グループワークで自分の意見を発表し、他者の考えを聞くことで、多面的な視点が得られ適切に判断できる力を身に付ける。 【思考力】【判断力】
 - ・発表方法が適切であるか評価し、疑問、気づきをその場で取り上げ、補足説明する。 【表現力】【学ぶ意欲】

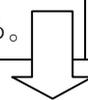
④ 知識の定着と学ぶ意欲の向上を促す工夫

- ・本時の気づきをワークシートにまとめ知識の定着を図る。また、次時の内容に関して自分の考えをまとめておく家庭学習課題を提示し、学ぶ意欲を促す。 【学ぶ意欲】【学び方】

B-1 事例	B-2 ワークシート (1・2時)
B-3 ワークシート (3時)	B-4 家庭学習課題 (3時)

3 指導の実際

	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点
1 時	事例の読み取り 【B-1】 【B-2】	・「身体機能状況」「精神・心理状況」「社会環境状況」の視点で現状把握する。	・3つの視点の具体例を示し、事例の内容が理解しやすいようにする。
2 時	主目標の設定 【B-2】	・現状把握から生活課題を発見し主目標を設定する。	・利用者の真のニーズが読み取れるようにする。
3 時	支援目標の設定 【B-3】【B-4】 【C-1】	・主目標達成のための支援目標を考える。	・主目標に基づいて、根拠ある支援目標が考えられるように促す。
4 時	社会資源の検討 【B-4】	・支援目標達成のための社会資源を考える。	・社会資源には、フォーマル、インフォーマルがあり、利用者に適したものを選択し活用できるよう理解を促す。
5 6 時	ケアプランの発表と ・まとめ	・ケアプランの内容を発表し、社会福祉実習での受け持ち利用者のケアプラン作成に向けての視点を理解する。	・利用者に適した自立生活支援の過程を考えたケアプランの作成を目指すことを理解させる。



C-1 指導案 (3時)	社会福祉実習での受け持ち利用者のケアプラン作成
---------------------	-------------------------

4 成果と課題

(1) 成果

- ① グループワーク、全体発表を通して、支援目標や援助方法の多様性を感じることができた。この事は、ケアプランの個別性の理解に繋がった。また、根拠があって支援目標が設定されることを知り、ケアプランは知識・技術を統合し作成されることを実感した生徒が多かった。
- ② 思考過程を示すことで、主目標から支援目標が設定されることを理解することができた。

(2) 課題

グループワーク中の生徒の気づきを捉え、その場で取り上げ生徒全体に広げる工夫が必要である。自分の考えを言語化し、相手に分かるように説明することに戸惑う生徒が見られた。思考過程を文章にすることや、図示することで生徒に深く考えさせたい。また、発表場面で発表方法の指導をしたい。受け持ち利用者のケアプラン作成時に、ケアプラン作成の思考過程を想起させ、自立生活支援に向けたものが作成できるよう個別指導をしたい。

D-1 生徒の気づき (3時)
